

様式【学校評価資料】

学校 経営 目標	具体的計画	令和4年度の達成基準	自己評価（中間）			自己評価（最終）			学校関係者評価
			達成状況	評価	改善策	達成状況	評価	改善策	自己評価の適切さ
1 心の教育の充実	<p>【やさしい子】</p> <p>①道徳教育、人権教育、総社っ子応援プロジェクトの取組を充実することにより、児童同士の絆や思いやりの心を育て、長期欠席・不登校やいじめの未然防止に努める。</p> <p>②「すきだ総社小学校運動」すすんで挨拶、きちんと歩行、だまって掃除を推進するとともに愛校心を育てる。（総社を愛す子供）（心優しい子供）（礼儀正しい子供）</p>	①思いやりの心をもって生活しているという回答が85ポイント以上である。（児童・保護者・教職員） 【人間関係・特別支援教育】	○周りの人への優しさ 児童：86.9p ○周りの人の優しさ 児童：87.8p ○思いやり 保護者：84.4p 教職員：92.5p	B	・ピアサポート、縦割り活動など異学年交流を通して、思いやりの心を育てていく。 ・これまで取り組んできている、児童のよい場面を見つけて撮影した写真の掲示、「くすの葉」の掲示を継続し、PBIS活動を充実させる。	○周りの人への優しさ 児童：84.5p ○周りの人の優しさ 児童：85.7p ○思いやり 保護者：84.6p 教職員：91.7p	B	・ピアサポート、縦割り活動、PBIS活動など、思いやりの心を育む取組が実を結んできている。今後も今の取組を継続し、児童の思いやりの心を育てていきたい。 ・「くすの葉」の取組を、児童会を中心にさらに活性化していきたい。	自己評価は適切である。 児童の達成状況は、84.5pであるが、中間報告より少し低下しており、また、昨年度と比較しても少し低下している。引き続き、思いやりの心を育む取組を継続していただきたい。また、児童会の取組にも期待したい。
		②進んであいさつができてきているという回答が85ポイント以上である。（児童・保護者・教職員） 【人間関係・特別支援教育】	児童：82.7p 保護者：81.5p 教職員：89.6p	B	・場によって、人によって挨拶はできているが、「だれにでも」あいさつができていない。道徳科の授業や学級経営を通して、「人」にあいさつをする意識を育て、「だれにでも」挨拶できるようにしていきたい。 ・児童玄関のところであいさつ運動に集中するのではなく、校内や校門などの場所に分散させて行うことで、いろいろな場面で挨拶できるようにする。	児童：82.9p 保護者：81.4p 教職員：91.8p	B	・あいさつ運動は、分散させながら、さらに活発に行うことができた。学校内での挨拶だけでなく、地域でも挨拶ができるようにしていきたい。そのために、高学年を中心に登校班で挨拶できるようにしていきたい。	自己評価は適切である。 「地域におけるあいさつ」についても具体的かつ積極的な取組に挑戦している点が非常に素晴らしい。 引き続き、学校・家庭・地域と連携した取組に期待したい。
2 健康・体力づくりの推進	<p>【たくましい子】</p> <p>③健康教育、特別活動を充実することにより、児童に基本的な生活習慣を身に付けさせる。総社東中学校ブロックの学校園と連携し、ノーメディアの取組を推進する。</p> <p>④目標をもって主体的に体力づくりに取り組み、体力の向上を図るとともに最後まで粘り強く頑張る態度を育てる。</p>	③感染症対策として手洗い・マスクの着用、換気を行っているという回答が90ポイント以上である。（児童・保護者・教職員） 【保健安全】	児童：91.4p 保護者：89.1p 教職員：96.0p	B	・日頃の声掛けの成果が出ている。新学期などの区切りの時期には、手洗いの励行やマスクの着用、換気について校内放送を行ったり、委員会と連携して手洗いが疎かにならないよう取組を行ったりする。 ・引き続き、学校からの配布物を通して各家庭にも啓発・注意喚起していく。	児童：89.2p 保護者：89.3p 教職員：96.3p	B	・1月半ば～2月末まで保健委員会で「手洗い調べ」を行う。感染症の流行する時期も手洗いが疎かにならないよう、全校で取り組む。また、寒い時期であるが換気も忘れず行うよう、学級で声掛けをするようにする。	自己評価は適切である。 コロナ禍における感染対策の在り方が議論される中で、教職員・家庭の連携した取組により、感染対策を行った点は、評価することができる。今後も学校・家庭・地域との連携を期待したい。
		④睡眠とメディアコントロールを中心に、基本的な生活習慣が身に付くように取り組んでいるという回答が80ポイント以上である。（児童・保護者・教職員） 【保健安全】	児童：87.2p 保護者：81.5p 教職員：82.6p	A	・メディアとの付き合い方について、学級懇話会や通信等で啓発を行った。今後も参観授業等で啓発に努めて、家庭と連携しながら取り組んでいく。 ・特に、メディアコントロール週間にはメディアとの付き合い方、睡眠の大切さについて意識が高まるよう、学年の実態に応じて指導をしていく。	児童：85.6p 保護者：81.6p 教職員：89.8p	A	・メディアコントロール週間では、学年通信での啓発やクラスでの声掛けに加えて、チェック項目に丸印が多くついた児童に表彰状を渡す取組を行ったり、クラス全員で休み時間のタブレット使用を控えたりしてメディアコントロールの意識が高まるようにした。今後もメディアコントロールの意識が高まる取組を各学年・学級の実態に応じて行っていきたい。	自己評価は適切である。 今後は、改善策にも提示されているような、各学年・各クラスでのモデルとなるような取組を共有しながら総社小学校ならではの取組の発展と提案を期待したい。
		⑤自分から進んで運動しているという回答が80ポイント以上である。（児童・保護者・教職員） 【保健安全】	児童：83.2p 保護者：81.2p 教職員：85.3p	A	・委員会を中心に「業間運動期間」の活動内容を企画・運営し、全校で運動に親しむことができるようにする。 ・体育の授業では、めあてをもって運動ができるように工夫するとともに、進んで運動しようとする意欲を高めるようにする。	児童：83.8p 保護者：79.8p 教職員：87.7p	B	・12月上旬よりタブレット使用のルールが変わったことで、外遊びに出る児童が増えてきている。3学期は、運動委員会が企画・運営し全校でなわとび運動に取り組むことで、進んで運動する児童を増やしていきたい。	自己評価は「B」であるが、「A」が妥当である 保護者の達成状況は79.8pでありほぼ80pに達している。 また、休み時間の「タブレット使用のルール変更」等独自の取組の成果がでていることも評価することができる。この点から「A」に変更することを提案する。
		⑥自分の考えや振り返りを書いているという回答が85ポイント以上である。（児童・教職員） 【学力向上】	児童：85.8p 教職員：88.9p	A	・時間の確保が難しいが、引き続き書く活動を授業の中に位置づけることを意識して取り組む。 ・学年ごとに、書く内容のレベルアップを図る取組をしているので、継続していく。	児童：83.6p 教職員：91.2p	B	・これまでの取組から児童の意識は高まってきている。すべてのクラスで足並みをそろえて取り組めるよう、年度初めの共通理解をしっかりと図るようにする。 ・授業の始めに前時の振り返りを紹介するなどして、書くのが難しい児童への支援・指導をする。	自己評価は適切である。 本項目については、学力調査との関連の検討も必要であり、さらなる取組を期待する。 年度初めの教職員の共通理解の徹底により、教職員および児童による適正な評価となるよう、尽力していただきたい。
3 確かな学力の育成	<p>【すすんで学ぶ子】</p> <p>⑤児童が主体的・対話的で深い学びを実践し確かな学力が身に付けることができるように授業改善を行う。特に、考える活動や書く活動を重視する。</p> <p>⑥朝学習や総小チャレンジタイム、家庭学習の充実を図り、基礎学力の定着を目指す。</p>	⑦国語と算数の単元テストの正答率8割以上の児童が、(低学年80%、中学年75%、高学年70%)80ポイント以上である。（児童・教職員） 【学力向上】	教職員：82.2p	A	・今までの取組に継続して取り組んでいく。 ・OJTによる相互授業参観を2学期から行うことで、さらなる授業力の向上を図る。	教職員：77.1p	B	・転入者が多く評価の仕方の共通理解に課題があったため、1回目と2回目で数値が変わっている。評価の仕方を年度初めにきちんと共通理解して取り組む。 ・OJTによる相互授業参観を行うことで、授業改善に生かしていく。個別支援とともに継続して取り組んでいく。	自己評価は適切である。 OJTによる相互授業参観の取組と成果は評価することができる。今後も、研修の継続と個別支援の充実を期待したい。 本項目についても、⑥と関連させ、学力調査との関連についても検討いただきたい。 さらに、⑥と同様に、年度初めの教職員の共通理解の徹底により、より適正な評価の実現を期待したい。
		⑧家庭で学年×10分+10分勉強しているという回答が80ポイント以上である。（児童・保護者・教職員） 【学力向上】	児童：85.8p 保護者：75p 教職員：85.4p	B	・宿題+自主学習で、目標時間が達成できるよう引き続き指導していく。 ・家庭への啓発や宿題の内容の振り返りなど、学年団を中心に取り組んでいく。	児童：83.7p 保護者：75.2p 教職員：85.5p	B	・保護者に対して、懇話会や通信等を通じて家庭学習の取組の充実を図るよう啓発をする。 ・教職員に対しては、宿題の量や内容が適切かを学年団で定期的振り返り、検証と改善を行っていく。 ・ナイスノートの掲示が児童の励みにつながっているため、継続して取り組んでいく。	自己評価は適切である。 今後も引き続きナイスノートの掲示など児童の内的動機付けに繋がる取組に期待したい。加えて授業と家庭学習を効果的につなぐ方策についても検討していただきたい。 またPTAと連携し、家庭学習の実態と課題についての検討も模索していただきたい。 本件についても、⑥⑦と同様に、年度初めの教職員の共通理解の徹底により、より適正な評価の実現を期待したい。
		⑨学校から積極的に情報発信が行われているという回答が85ポイント以上である。（保護者・教職員）	保護者：83.7p 教職員：86.5p	B	・学年だよりに掲載しきれない学校や学級での子どもの姿が見られるように学年だよりにホームページのURLやQRコードを掲載し、情報発信をしていく。 ・ホームページの担当者を中心にタイムリーなホームページの更新を継続して行う。 ・保護者と普段からの連絡帳や電話、家庭訪問等による連絡をとり、継続して連携を図る。	保護者：84.9p 教職員：86.3p	B	・学校や学級での子どもの姿が見られるように計画を立てて、情報発信をし、学年だよりにホームページのURLやQRコードを掲載する。 ・ホームページの担当者を中心にタイムリーなホームページの更新を継続して行う。 ・保護者と普段からの連絡帳や電話、家庭訪問等による連絡をとり、継続して連携を図る。	自己評価は「B」であるが、「A」が妥当である 保護者の達成状況は、ほぼ85ポイントである。また中間報告よりも上昇している。 この点から「A」に変更することを提案する。引き続き、計画的な取り組みに期待したい。 改善案については、中間報告と同様の内容となっており、適切なPDCAサイクルによる自己評価を期待したい。
4 地域とともにある学校づくり	<p>⑦各種の便り、ホームページの更新、学校評価、学校公開等により、積極的に情報を発信する。</p> <p>⑧きらめきEASTの幼稚園、小・中学校や家庭・地域・関係機関等との連携を深め、児童の健やかな成長を図る。</p>	⑩安心・安全な学校生活を送るために、学校内外の安全確保の取組を行っているという回答が90ポイント以上である。（児童・保護者・教職員）	児童：88.8p 保護者：86.6p 教職員：92.3p	B	・学校支援ボランティアと協力して、登校は校長と生徒指導が自転車で学区を見回り、下校は曜日ごとに担当学年を決めて下校指導を行う。 ・校内のきまりやルールを教職員で共通理解を図って指導する。特に、①あいさつ②廊下歩行③だまって移動することについて重点的に取り組むため、教職員や児童による校内放送で繰り返し意識づけを行う。 ・委員会を中心に廊下歩行やだまって移動について全校で取り組む。	児童：85.3p 保護者：87.1p 教職員：93.7p	B	・学校支援ボランティアと協力して、登校は校長と生徒指導が自転車で見回り、下校は曜日ごとに担当学年を決めて下校指導を行う。 ・校内のきまりやルールを教職員で共通理解を図って指導する。特に、①あいさつ②廊下歩行③だまって移動することについて重点的に取り組むため、教職員や児童による校内放送で繰り返し意識づけを行う。 ・生活委員が廊下歩行と階段歩行について、強化週を計画し、校内放送をして全校で取り組むようにする。	自己評価は適切である。 児童の安心・安全を守る取組の改善策は具体的であり、校長先生・生徒指導の教員のリーダーシップが窺える。今後、予想される学校を取り巻く環境の変化に応じた対策についても地域や保護者との連携もみられる。引き続き今後の取組に期待したい。